

信州大学-Curtin University of Technology  
大学間学術交流協定に基づく  
平成 19 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学

-2007-



Curtin



平成 19 年 11 月 30 日  
信州大学医学部保健学科

## 【目次】

I. 学術交流にあたって	.....	3
II. 学術交流の概要	.....	4
III. カーティン工科大学の概要	.....	6
IV. 平成19年度夏期海外単位認定プログラム		
1. はじめに	.....	7
2. 夏期海外単位認定プログラム		
3. 研修期間		
4. 研修場所		
5. 研修プログラムの内容	.....	8
6. 参加人数	.....	9
7. 指導教員		
8. 研修費用		
9. 研修日程	.....	10
10. 研修プログラム	.....	11
11. 学生アンケート	.....	13
12. 学生レポートおよび感想文	.....	17

(編集後記)



(表紙の写真は、研修最終日の修了式後、Curtin 工科大学にて)

## I. 学術交流にあたって

### 信州大学医学部保健学科長 市川元基

西オーストラリア州パースのカーティン工科大学への海外短期単位認定プログラムに、今年度は看護学専攻 10 名、検査技術科学専攻 2 名、理学療法学専攻 2 名、作業療法学専攻 1 名、15 名の学生さん達が参加されました。また今年初めて、信州大学医学部附属病院の現役の看護師さん 2 名が最後の 1 週間のコースに合流され、病院や医療施設の見学に加わりました。学生さん達は事前学習を含めて一生懸命がんばったと思います。今回の海外での経験を活かしてさらに勉学に励んでいただくことが本プログラムの意義であり、これからの各人の努力に期待しています。

事前のカーティン工科大学との交渉、プログラムの作成、航空券の確保等の準備を滞りなく行ってくださった教職員の皆様、また渡航中の学生さん達の安全と健康に気遣ってくださった付き添い教員の方々に深謝いたします。今回のプログラムは平成 19 年度「大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)(学内版 GP)」からの資金及び信州大学医学部保健学科同窓会からの資金の援助のもとに運営されました。この学内版 GP 作成に関わってくださった教職員の方々、また選定にご配慮くださった方々、そして基金を寄付してくださった信州大学医学保健学科同窓会の皆様に感謝いたします。

### 「カーティン工科大学との学術交流を同総会は支援します」

#### 保健学科同窓会長 川上由行

本年は、例年より参加者は少なめでしたが、8月11日(土)から9月1日(土)までの、西オーストラリア州パースにあるカーティン工科大学における海外短期単位認定プログラムが滞りなく終了し参加学生、引率教員の全員が元気で帰国しました。パースでの Curtin-Life を十分に満喫された学生さん、そしてこのプロジェクトの円滑運営に対して労力を惜しまずに支援された教員各位、そして実際に引率された教員各位には、本当にお疲れさまでした。

本プロジェクトは発足して未だ日も浅いですが、着実に成果を上げて来ているのを実感させていただいております。今年1月下旬から2月の頭にかけて、カーティン工科大学看護学部のパメラ・ロバーツ先生を招聘して交流を深めることが出来ました。今後は、更に一步進めて、学生相互の交換留学や教員相互の交流をも視野に入れた学術交流の取組みへと発展させて行っていただきたいと念じております。

教員相互間の学術交流と本保健学科学生とカーティン工科大学学生相互間での益々の有効的な交流へと進展して行くことを祈念しつつ、われわれ保健学科同総会は、この学術交流を支援して行きます。

建設的な意見交換の中でこの素晴らしいプログラムがより一層の輝きを増していくことを信じています。

## II. 学術交流の概要

### 1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授(現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長)と、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之、楊箒隆哉両教授およびゴウ・アー・チェン助手(現准教授)の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として、カーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学教員が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箒隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトンスミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫部長以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位取得プログラムに参加した。
- 9) 2002年(第2回)は27名、2003年(第3回)は24名、2004年(第4回)は20名、2005年(第5回)は29名、2006年(第6回)は28名、2007年(第7回)は15名および信大附属病院看護師2名が夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

## 2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定及び2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新された。有効期限は2009年3月までの5年間で、両校の交流は一層親密に深められることになった。

学術交流協定 (2004.4～2009.3)

教員と学生の交流に関する協定書(2004.4～2009.3)

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING**

**FOR THE DEVELOPMENT OF ACADEMIC COOPERATION**

Between


**CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY  
PERTH, WESTERN AUSTRALIA**  
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

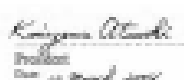
And

**SHINSHU UNIVERSITY  
NAGANO, JAPAN**

In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, Curtin University of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities, and Shinshu University, have agreed that:

1. The two institutions will:
  - i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;
  - ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;
  - iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing prior to commencement of this activity;
  - iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;
  - v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;
  - vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.

  
 Vice-Chancellor  
 Date:

  
 President  
 Date:

**STAFF AND STUDENT  
EXCHANGE AGREEMENT**

Between

**CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, PERTH,  
WESTERN AUSTRALIA**  
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

And

**SHINSHU UNIVERSITY, NAGANO, JAPAN**

Curtin University of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities (hereinafter referred to as "CURTIN") and Shinshu University (hereinafter referred to as "SHINSHU") agree to the following terms.

**DEFINITIONS**

In this Agreement, unless the context will otherwise imply:

**HOME institution** means the institution at which the student intends to graduate; HOST institution means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.

**ACADEMIC YEAR** in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester I) and July to November (Semester II); and in the context of SHINSHU means April to August (Semester I) and October to February (Semester II).


**ACADEMIC STAFF** means Teaching Staff.


**EXCHANGE STUDENTS** means students attending the HOST institution with no requirement to pay tuition fees to that institution and where reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.

**STUDY ABROAD STUDENTS** means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution.

**EXCHANGE PROGRAMS** refers to students undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students; and staff undertaking a period of exchange at the institution of the other Party.

**CLINICAL PRACTICE** refers to activities undertaken by students as part of their enrolled course requirements to develop their professional competence in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialist

  
 Vice-Chancellor  
 Date:

  
 President  
 Date:

### Ⅲ. カーティン工科大学の概要

#### 1. 設立

- 1) 1967年: The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年: Curtin University of Technology となる。

\*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

#### 2. 位置

- 1) 西オーストラリア州唯一の工科大学(公立)
- 2) メインキャンパスはパース(Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約 120 万)の郊外ベントレー(Bentley; 中心部より 10 キロ南東へ位置、海岸まで車で 20 分)に立地し、他に Perth 中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス(Kalgoorlie, Muresk, Sydney, Sarawak; Malaysia)を有する。

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

TEL : 08-9266-9266

HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

#### 3. 学部等

- 1) 学部: 経営学部(6 学科), 健康科学部(6 学科), 人文学部(14 学科), 理工学部(10 学科), 資源・環境学部(8 学科)
- 2) 大学院: 経営学(1 専攻), 健康科学(6 専攻), 人文科学(13 専攻), 理工学(10 専攻), 資源・環境学(5 専攻)

学士, 修士, 博士課程: 合計 850 コース

#### 4. 学生数および教職員数(2007 年度)

- 1) 学生数: 35,300 人(現地留学生数: 103ヶ国, 7,200 人)
- 2) 教員数: 1,200 人
- 3) 職員数: 1,700 人

## IV. 平成19年度夏期海外単位認定プログラム

### 1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき、平成19年度夏期海外単位認定プログラムが平成19年8月11日から9月1日の約3週間にわたり、カーティン工科大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには15名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

カーティン工科大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5月から7月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修間経資料の配布と事前学習の説明が行われた。

また、本年度プログラムの一部には、2名の医学部附属病院看護師が初めて参加した。

### 2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的：他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定：国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、カーティン工科大学での全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

### 3. 研修期間

研修期間：平成19年8月11日(土)～9月1日(土)，22日間

### 4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス；カーティン工科大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設/演習場所：  
(全専攻共通)
  - ① Princess Margaret Children's Hospital, Perth
  - ② Regent Garden Nursing home, Perth
  - ③ Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine, Perth
  - ④ Mercy Hospital, Perth
  - ⑤ Anatomy practical session, Curtin University

## 5. 研修プログラムの内容 (Curtin University of Technology)

### 第1週; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (DOLIE\*)

- ・ カーティン工科大学および DOLIE のオリエンテーション。
- ・ 英語力診断試験。
- ・ DOLIE による英語および医療英会話の授業。
- ・ キャンパスツアー。
- ・ 各専攻別大学専門施設, 研究室, 実験施設見学。

(\* DOLIE: Department of Languages & Intercultural Education)

### 第2週; Hospital Communication for Health Professional /Combined Lectures

- ・ Hospital Communication for Health Professional (医療英語)
- ・ 保健医療領域の合同講義。
  - ① Health Careers: (看護・理学のオーストラリアにおけるキャリア)
  - ② Auditing(看護・検査・理学・作業に分かれて, 講義の聴講)
  - ③ The Australian Health Care System
- ・施設見学
  - ① Princess Margaret Children's Hospital, Perth
- ・Excursion(Swan Valley)

### 第3週; Hospital Communication for Health Professional /Combined Lectures

#### Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・ Hospital Communication for Health Professional (医療英語)
- ・ 専攻別専門領域の講義  
Health Careers: (検査のオーストラリアにおけるキャリア)
- ・実習(解剖学)
- ・ 施設見学
  - ① Regent Garden Nursing home, Perth
  - ② Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine, Perth
  - ③ Mercy Hospital, Perth



## 6. 参加人数

看護学	: 10名(3年生10名)
検査技術科学	: 2名(2年生1名, 3年生1名)
理学療法学	: 2名(2年生2名)
作業療法学	: 1名(2年生1名)
<hr/>	
合計	15名
医学部附属病院看護師	2名

## 7. 引率指導教員

カーティンプログラム担当教員(柳澤理子 教授, 相良淳二 教授, Goh Ah Cheng 准教授)

## 8. 研修費用

研修費用: 学生一人 40万円

### 【内訳】

・往復航空運賃	152,950円
・特別プログラム授業料	188,900円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	
・滞在費(3週間)	56,600円(ホームステイ, 食事込)
<hr/>	
計	398,020円

指導教官3名分の航空運賃, 宿泊費は同窓会から計上された。

## 9. 研修日程

- ① 8月11日午前10時半に信州大学北門よりバスで出発し、午後4時半東京成田空港に到着した。  
QF70便で午後8時40分に成田空港を出発した。
- ② 8月12日午前5時55分にパース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港ロビーで行なわれた。その後ホームステイ先の家族(ホストファミリー)の出迎えがあり、各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから、ホームステイ先での生活の規則、通学経路の案内(ホームステイ先は大学から徒歩20分の所からバスを乗り継ぎ約1時間かかる所までいろいろある)、周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。
- ③ 8月13日 Curtin 工科大学にてオリエンテーション、英語力診断試験、キャンパスツアー、パース市内バスツアーが行なわれた。
- ④ 8月14日～8月31日、英語および医療英会話の授業、ヘルスケアに関する講義、保健医療領域の講義、専攻別の講義の聴講、施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細をP10～11に示した。
- ⑤ 8月31日午前10時30分、Graduation Ceremony(修了証書授与式)が行なわれ、学生が一人ずつ英語でスピーチをした。続いてFarewell Lunchがあった。その後学生はホームステイ先に帰宅し、午後8時00分、ホストファミリーに送られてパース空港に集合、午後11時00分QF79便にてパース空港を出発した。
- ⑥ 9月1日午前9時55分、東京成田空港に到着し、空港にて解散した。



Curtin 工科大教員による English language class

10. 研修プログラム一覧



**DEPARTMENT OF LANGUAGES AND INTERCULTURAL EDUCATION**  
**SHINSHU UNIVERSITY ENGLISH AND HEALTH SCIENCES STUDY TO**  
**UR PROGRAM AT CURTIN UNIVERSITY**  
**12 August – 31 August 2007**

**TIMETABLE**

**Week One**

<b>Time</b>	<b>Sunday 12 Aug</b>	<b>Monday 13 Aug</b>	<b>Tuesday 14 Aug</b>	<b>Wednesday 15 Aug</b>	<b>Thursday 16 Aug</b>	<b>Friday 17 Aug</b>
<b>9.00 – 12.00</b>	Arrival on QF70 at 6 am.  Briefing with Curtin staff 8 am.  Students to be collected by homestay hosts at 8.30 am.	Orientation <b>211.223</b>  10 am- Welcome morning tea <b>405.435</b>  English diagnostic testing  Curtin student cards <b>211.223</b>	<b>9.00 – 10.00</b> OASIS login  <b>10.00-12.00</b> English class <b>Linda</b>  <b>501.231</b>	English class <b>211.226</b>	English class <b>211.226</b>	English class <b>211.223</b>
<b>12.00 – 1.00</b>		<b>LUNCH</b>				
<b>1.00 – 3.00</b>		Bus Tour of Perth  1 pm pick up 3 pm drop off at Curtin Bus Station	English for health professionals <b>211.226</b>	English for health professionals <b>211.226</b>  <b>Edith Wilson</b>	English for health professionals <b>211.226</b> ----- <b>3 pm</b> Library tour Esther Darley Theatrette (level 2)	<b>1.00 – 2.00</b> Tour of Health Sciences <b>Carolyn Mascall</b> <b>Jeff Jago</b> ----- <b>2.15 – 3.15</b> MRSA Testing Health Services (Bldg 109)

## Week Two

Time	Monday 20 Aug	Tuesday 21 Aug	Wednesday 22 Aug	Thursday 23 Aug	Friday 24 Aug
9.00 – 12.00	Audit lectures in Nursing / Physiotherapy / Occupational Therapy / Biomedical Sciences	English for health professionals <b>211.226</b>	English for health professionals <b>211.226</b>	9.00 – 10.00 Morning tea  10.00 – 12.00 Careers in Physiotherapy  <b>211.226</b>	9.00 – 3.00 Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Sandalford winery and Margaret River Chocolate Factory  Leave outside Curtin bus Station at 9 am
12.00 – 1.00	<b>LUNCH</b>				
1.00 – 3.00	Free	Audit lectures in Nursing / Physiotherapy / Occupational Therapy / Biomedical Sciences	Princess Margaret Hospital <b>Margie Lane</b>	Lecture: The Australian Health Care System /Careers in Nursing <b>211.226</b>  <b>Louise Horgan</b>	

## Week Three

Time	Monday 27 Aug	Tuesday 28 Aug	Wednesday 29 Aug	Thursday 30 Aug	Friday 31 Aug
9.00 – 12.00	Regents Garden Nursing Home  <b>Caroline</b>  Two nurses join the course	Royal Perth Hospital  <b>Asadah Sidon</b>	9.00 – 10.00 Careers in Biomedical Sciences <b>Jeff Jago</b> <b>201.228</b>  10.30-12.00 Anatomy <b>John Owens</b> <b>201.228</b>	Mercy Hospital  <b>Vivienne Sprigg</b>	9.30 – 10.30 Course evaluation  10.30 – 11.30 Graduation Ceremony <b>211.226</b>  11.30 – 12.30 Lunch <b>Curtin on the Park</b>
12.00 – 1.00	<b>LUNCH</b>				
1.00 – 3.00	English for health professionals  <b>211.226</b>	English for health professionals  <b>211.226</b>	English for health professionals  <b>211.226</b>	English for health professionals  <b>211.226</b>	

## 11. 学生アンケート

### A 出発前の準備について

#### 1 費用の捻出

	n	%
1) 家族が全額負担	4	26.7
2) 自己資金のみ	3	20.0
3) 自己資金と家族の支援	8	53.3

#### 2 渡豪前の自己学習

	n	%
1) 自己学習をした	12	80.0
2) 何もしなかった	3	20.0

#### 3 研修プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	n	%
1) 適切	15	100
2) 不適切	0	0

#### 4 参加申込み締め切りの時期

	n	%
1) 適切	13	86.7
2) 不適切	2	13.3

#### 5 出発前オリエンテーションの時期

	n	%
1) 適切	11	73.3
2) 不適切	4	26.7

#### 6 オリエンテーションの内容

	n	%
1) 適切	11	73.3
2) 不適切	4	26.7



ロットネスト島のクウォッカ  
有袋類です

#### 【事前学習した内容】

英語・英会話／オーストラリアの歴史・文化・特徴  
アボリジニーについて  
メディケア・フライングドクターについて  
オーストラリアの OT 事情

#### 【事前学習が必要だった内容】

日常英会話  
医療英語(解剖)・医療英会話  
アボリジニーの歴史

#### 【3のコメント】

同じ曜日は避けて欲しい

#### 【4のコメント】

もう少し遅めが良かった

#### 【5のコメント】

もう少し多く行ってほしかった  
編入で授業があったため、放課後にしてほしかった  
だいたいの日程をもう少し早めに知りたかった

#### 【6のコメント】

ホームステイ先の情報がもう少しほしかった  
オーストラリアはとても寒いから、冬服が必要であると  
教えてほしかった



ピナクルズへの道、地平線までまっすぐ、  
360度見渡せるよ

## B 自由記載分まとめ

### 1. 参加動機

#### 1) 海外の医療制度を学び、医療教育、実践現場に触れたい

- ・海外の看護や医療について興味があり、学びたかったから
- ・海外の授業や病院を見てみたかったから
- ・オーストラリアのPTは、日本とは立場も権利も違うと聞いていたから

#### 2) 夢を実現し、充実した夏休みにしたい

- ・ホームステイをしたいと思っていたから
- ・日常生活とは違うことをしてみたかったから
- ・長い夏休みを有意義に過ごしたいと思ったから
- ・自分で稼いだお金で何かをやり遂げてみたかったから

#### 3) 語学力を向上させたい

- ・英語を勉強したかったから
- ・英会話に興味があったから

#### 4) 異文化に触れたい

- ・海外に行ってみたかったから
- ・外国の文化に触れてみたいと以前から思っていたから
- ・海外旅行や留学が初めてで、良い機会だと思ったから

#### 5) その他

- ・前年度にこのプログラムに参加した先輩のすすめ
- ・学生がみんな良く勉強すると聞いていたので、刺激を受けたいと思ったから
- ・自分自身、将来何をしたいのか、わからなくなっていたので色々な世界を見たいと思ったから



### 2. ホームステイについて

#### <よかったこと>

#### 1) 語学力の向上

- ・nativeな英会話を知ることができた
- ・英語をもっと話せる用になりたいと真剣に思った
- ・英語が話せることの大切さを実感した

#### 2) 人間関係の広がり

- ・良いホストファミリーに出会えた
- ・ホームマザーの孫や友人たちとも多く出会えた

- ・同じ家にいた留学生と交流を持てた

#### 3) オーストラリアの生活・異文化を体験

- ・生活を共にすることで文化の違いを肌で感じる事ができた
- ・オーストラリアの食事を満喫できた
- ・他国の生活習慣を知ることができた

#### 4) 日本の良さの再認識

- ・日本にいる家族や友人の大切さを実感した
- ・日本の良さを再認識することができた



#### 5) 自己の生き方に対する意識の変化

- ・日本での自分の日常生活を直そうと思えた
- ・ものごとの見方が広がった

#### <困ったこと>

#### 1) 言いたいことが伝えられない

- ・自分の言いたいことを伝えることができなかった
- ・英語ができないと自分の言いたいことが伝わらない

#### 2) 家庭内の役割がわからない

- ・何をどこまですればいいのか、とまどった。
- ・はじめの頃、どの程度手伝えばいいのか、わからなかった

#### 3) ホストの家事不足

- ・清潔感がない／・家の中が汚い
- ・洗濯の回数が少なくて、着られる服がなくなってしまった

#### 4) その他

- ・ホームステイ先に多くの留学生がいることを、事前に知らなかったため、心の準備がなく初めとてもストレスになった





### 3. 3 週間のコースについて

<よかったこと>

#### 1) 異文化体験

- ・日本とは異なる文化に出会えた
- ・英語にたくさん触れることができ、会話のノウハウが学べた

#### 2) 自己の成長

- ・自分の気持ちを英語で表現しようと努力することができた
- ・見ず知らずの土地で、自分の力や他の人の協力や助けを得て、生活できる喜びを感じられた

#### 3) コースに対する満足感

- ・授業と見学がどちらもバランスよくあって、よかった
- ・オーストラリアの学生が受けている授業に実際に参加することができた
- ・日本では受けられなかった anatomy を受けることができた
- ・行きたいと思っていた病院を見学でき、またオーストラリアの看護師について、情報を得ることができた
- ・3 週間あると、授業だけでなく見学も含め、余裕をもってみる
- ・解剖の授業と微生物実習の見学がわかりやすかった
- ・教授の教え方のうまさに、学ぶ環境が整っていると感じた
- ・学問だけでなく、現場がどうなっているのか、見ることで、充実していた



<困ったこと>

#### 1) 気候が寒い

- ・オーストラリアが予想以上にとても寒かった
- ・思ったより寒く、風邪をひいた。冬服が必要だった。

#### 2) 英語力不足

- ・英語の授業のレベルが難しかった
- ・自分の英語力がなくて、理解できないところも多々あった
- ・3 週目の English class は飽きてしまい、集中できなかった

<要望>

- ・英語クラスを少なくしてほしい
- ・英語の授業より、施設見学を増やしてほしい
- ・もう少し、Curtin の学生の様子を見たかった

- ・施設見学の前に、なぜその施設を選んだのか、その施設の特色は何か、等の情報があると良かった



### 4. 短期留学プログラムに参加して

#### 1) 英語の必要性

- ・伝えたいことをうまく伝えられないもどかしさをたくさん感じて、英語をきちんと勉強したいという気持ちになった
- ・英語が話せると、自分の世界が広がるということを実感した
- ・今後、日本で就職するとしても、やはり英語に触れていくことは重要だと思った
- ・まずは、在学中に英語を話せるようになる!!という具体的な目標ができた

#### 2) 専門分野や医療に関する学習

- ・日本の医療との違いについて、知ることができた
- ・改めて日本の医療を見直す良い機会となった
- ・日本で看護師になった後に、世界と交流して看護の進歩に役立てることがわかった

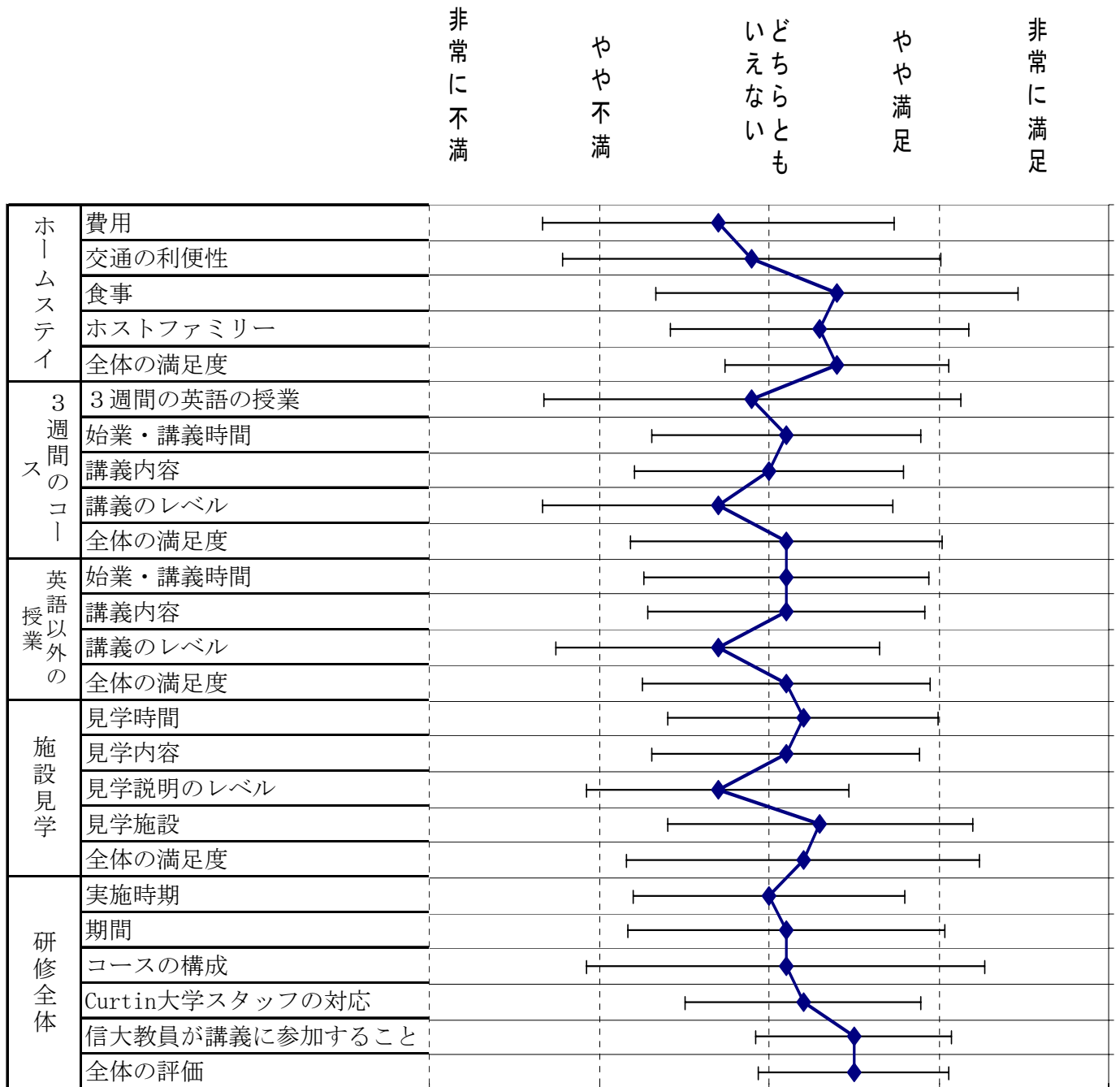
#### 3) 視野の広がりや自分自身の振り返り

- ・他の文化を知ることで、視野が広がった
- ・広い視野で物事が考えられるようになりたいと思った
- ・幅広い視野を持ち、学んでいくことの大切さを知り、今後に生かしていきたいと思った
- ・自分は日本人なのだと思直す機会にもなった
- ・今まで自分がどれだけ狭いところにいるのかと実感した
- ・自分の進路は限られたものではないのかもしれない、思えたことも大きな意味があると思う

#### 4) 進路、将来展望

- ・海外で働くこともいいかもしれないと思った
- ・海外で仕事をしたいと漠然と思っていたけれど、少し現実的になった気がする

C 研修に対する満足度





## 12 学生レポートおよび感想文

### 1) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して

#### 理学療法専攻 2年 服部 法子

わたしは今回 Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して、三週間オーストラリアのパスで過ごし日本で夏休みを過ごしては決して経験し、学ぶことが出来なかったであろう多くのことを体験できた。

三週間ホームステイをするということで不安が大きかったが、実際にパスについて生活を始めてみると英語を話さなくてはいけないという状況に少しずつ順応できてきて日を重ねるごとに英語というものに自分自身の耳が慣れていっているということを感じる事が出来た。わたしがホームステイしていた家には多くの留学生がいて国籍もそれぞれ異なっていたため、日本人同士でも日本語禁止と決まっていたので初めは違和感がありストレスにもなったが、中々英語を聞き取れないわたしにも何度もわかりやすい英語に言い直したり、またはゆっくり話したりしてくれるホストマザーやホームメイトと接していく中で、英語が common language であるということを感じ、英語がしゃべれるということはすばらしいことだなと思った。わたしの英語の実力は低く、英語を話すに当って不安が大きく勇気が必要であったが、英語が文法的に正しいかということは気にせずとにかく話すことが大切だと思った。また、日本で英語の授業を受けているときは積極的に話すことに抵抗があったが、実際にパスという周りとのコミュニケーションをとるには英語を話すしかないという場所で英語の授業を受けると、英会話の授業というものを実践的に感じ、とても楽しく英語の授業を受けることが出来た。

今回、オーストラリアでの理学療法士についても学べてとても勉強になった。実際に Curtin 工科大学の理学療法学科の授業を聴講して、学生が積極的に発言していて授業の雰囲気は日本と違うと感じた。また、生徒数も多いことから理学療法学科の施設がとても広く、実習の機器等の規模の違いに驚いた。

特に解剖学の授業を聴講して、標本の多さと授業のシステムの違いには衝撃を受けた。Curtin の学生の実習をしている様子を見ていて、各自がしっかりと予習をしてきていて成り立つ授業だと感じた。わたしの勉強の量ではぜんぜん足りないなと思い、今までの自分の勉強について反省した。学生の勉強についてだけでも日本との違いを感じたが、それだけでなく、オーストラリアでの理学療法士の地位や分野についても多くの違いを

知ることができた。理学療法士が開業できるということはもともと知っていたが、オーストラリアでは半数以上の理学療法士が開業していると聞き想像していたよりも多くて驚いた。また日本ではマイナーである呼吸器分野の理学療法士が、ほとんどの病院にいて、学生も必ず実習するということを知って、日本はまだ遅れているなど感じた。24 時間体制で理学療法士が病院にいてということは日本では考えられないことだけれども、日本ではその分看護師の負担が大きくなっているし専門的にも理学療法士が請け負うべきことは多くあると感じたので日本でも取り入れられていくべきだと思った。同様に、婦人科の分野で理学療法士がいるということも初めて聞き、世界では理学療法士は女性のほうが多いし、日本でも同様なので、婦人科の分野で理学療法士が活躍できるようになれば女性の理学療法士が活躍できる場が広がるのではないかと思った。わたしがこのまま日本で理学療法士になるにしろ、そのような分野で活躍する理学療法士が世界にはいるということを知ることができたということがわたしにとって大きな財産になると思う。(中略)

三週間パスで、そして Curtin 工科大学で過ごして、本当に多くのことを学ぶことができた。英語や理学療法についてのこと以外にも、オーストラリアのパスという町で過ごしたからこそ見る事が出来たものが多くあったと思う。休日にロットネスト島に行って見た壮大な自然、日本の海とは色が全く違うインド洋。片道三時間かけていったピナクルズ。長野では決して見る事が出来ない地平線。とにかく見たものすべてが思い出になっている。今回新しい世界を見て、まだまだ日本でも行ったことがない場所はたくさんあるし、もちろん世界でも同様なので、これからもっと食欲に積極的に新しいものを見たり、取り組んだりして自分自身の見聞を広めていきたいと思った。

Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して本当によかったと思う。このプログラムから得たものをこれからの自分の人生に生かしていきたい。三週間ありがとうございました。

## 2) Curtin 工科大学で学んだこと

### 検査技術科学専攻 2年 山口 古都

#### ホームステイ

私は、初めホームステイについてかなりの不安がありました。英語に自信がないからです。ホームステイ先では思っていたほど話せなくてショックを受けました。しかし、ホストファミリーは文法が間違っていたり、単語しか話せなかったりしても理解してくれたので、気兼ねなく話しかけることができました。(中略)

#### 講義

大学は広くて、毎日結構な運動をしました。一番多かった英語の授業は、文法、リーディング、英会話など日常に直接使えるものばかりだったので、かなり役立ちました。医療英語は会話方式や、文章の穴埋めなどで楽しみながら学ぶことが出来ました。

解剖の講義は一度一年の後期で学んでいた範囲だったのでかなりわかりやすかったです。骨の模型や、人体の模型もたくさん有り、それをうまく組み合わせた説明だったのでよく理解できました。実習室は思ったよりもきれいで驚きました。

#### 病院見学

病院は公立も私立もきれいで広がっています。

プリンセスマーガレット小児病院では、ゲームセンター、映画館、カフェなどが病院内に有り、そこだけ見ると病院ではないような雰囲気でした。この病院ではクラウンドクターが活躍していました。子供たちの不安を取り除く努力がされていると思いました。

リージェントガーデンナーシングホームは日本で言う老人ホームのようなところらしいのですが、日本とは全然雰囲気が違いました。とてもきれいで、高級ホテルのようでした。ここは、55歳以上なら誰でも入ることが出来て元気な方も入居しており、日本とは違うと思いました。日本では家庭で世話できなくなった方が老人ホームに入るというかんじですが、オーストラリアでは違うようです。しかし、オーストラリアでもやはり家庭のほうが良いという方が多いそうです。

ロイヤルパース病院は、一番日本のような病院でした。Royal Perth Hospitalは検査室の設備が整っており、複雑な機械をたくさん使用していました。スタッフも100人近くいました。なかでも、遺伝子系の検査設備が整っていると思いました。

Mercy 病院もホテルのような病院でした。婦人科が大きかったです。分娩室が日本のものとは全然違いホテルのようで、分娩のための道具は見えないように工夫

がされていました。妊婦の不安を取り除く工夫がよくされていると思いました。検査室は小さかったですが、いろんな機械がおいてありました。ここでは、検査技師が一人しか働いておらず、大変だと思いました。

#### 授業見学

微生物の実習を見学させていただきました。カーティン大学の微生物の実習は二人一組で菌を同定していました。先生は初めに少しだけ説明するだけで後の2時間は生徒が自分で動いて実習を進めていました。みんなてきぱきと行動していました。予習をしっかりしていないとできない実習だと思いました。生徒は自ら進んで勉強しているという印象を受けました。

オーストラリアでは国家試験というものはなく、卒業したら検査技師になれるそうですが、実習がハードで、病院実習も休み中にあるそうなので大変だと思いました。また、検査技師になっても2年ごとに資格を更新しなければならぬので大変だけれど、いい制度であると思いました。

#### 全体を通して

トイレトペーパーが細かく千切れたり、宣伝の広告をあまり配っていないなかったり、最低限の包装しかしなかったり、トイレの水が半分だったり、シャワーが10分だったりオーストラリアはいろいろ節約していると思いました。初めは不便だと思ったけれど、日本も少し見習ったほうが良いと思いました。

交通は信号がなく、結構怖いと思いました。オーストラリアでは車のほうが強いので初めはよくクラクションをならされました。また、飲酒はアバウトで女性はワイン一杯までならいいそうです。この点は危ないと思いました。しかし、ニュースを見ても交通事故のニュースは少ないので不思議でした。

英語ができないことがわかったので、後期の英語の授業が始まる前に少し勉強しなくてはならないと思いました。また、洋書が意外と読めることがわかったのでなにかチャレンジしてみたいです。

Curtin 工科大学の学生は授業の集合こそ遅いものの、みんな勉強熱心で、授業中でも質問をしていました。また、実習などはみんな自立しており先生に言われなくてもてきぱきと行動しており、見習わなければならないと思いました。

### 3) オーストラリア留学により私が見たこと、感じたこと

作業療法学専攻 2年 林 美緒

この度、私は信州大学保健学科の海外留学プログラムに参加させて頂きました。そもそも何故私がこのプログラムに参加したかという、海外旅行に一度でいいから行ってみたいという単純な理由からでした。しかし、今から思うとこんな理由で参加した自分を恥じるくらい多くの有益なものを得ることの出来た留学でした。

空港に着いた時から何もかもが初めてでした。周りの言語は全て英語、見渡せば違う人種の人ばかりで、ここでは私が外国人なんだと改めて感じ、緊張と不安が一気に押し寄せました。しかしこの不安を取り去り充実した留学生活が送れるようサポートしてくれたのが他でもないホストマザーでした。彼女は非常に親切な方で話しやすい話題を振ってくれ、拙い私の英語をゆっくりと聞いてくれました。私も徐々に話せるようになり、毎日の食事の時間がとても楽しいものになりました。また日本の文化を知ってもらおうと書道を教えた時にはとても喜んでくれました。

カーティン工科大学は非常に大きな大学で、始めは歩くのに一苦勞で何回も迷子になりそうになりました。しかし、大きさだけでなく校内は学生が勉学に励めるよう施設や授業内容など最適な環境づくりがされていました。今回のプログラム中にある英語の授業はスピーキングからリスニングまで幅広く包括しており、専門領域の授業を受ける際にとても役に立ちました。授業内容は全く堅苦しくなく非常に楽しんで英語を学べました。また私が最も驚いたのは、保健学科の専門領域の授業内容です。理学療法学専攻の解剖学の授業の見学では、実際に解剖実習室に入って受講させて頂きました。そこには人体を解剖した標本が各部分分かりやすく分類しており、日本にはないものだったのでとても感動しました。そして専攻ごとの授業ではオーストラリアの医療の現状、考え方などを学ぶことができ日本と比較することにより幅広い視野をもつことが出来ました。このことは3週目に行った病院見学で現場の雰囲気に触れることにより、更に深く学ぶことが出来ました。

休日には、西オーストラリアの名所を巡り、存分に現地を堪能することができました。シティと呼ばれる都心部、キングスパーク、動物公園にワイン工場、チョコレート工場。多くの場所を巡り、どの場所も非常に素晴らしかったです。中でも私はピナクルズという砂漠地帯に広がる岩の公園がとても印象深かったです。一面に広がる大地、大空、遠くに広がる大海原、すべてが日本

では見ることの出来ない貴重で涙が出るくらい感動する景色で、世界の広さと自分の小ささを改めて痛感させられました。西オーストラリアの景色、自然、動物、そして人、すべてが美しく雄大で、留学に対する不安や迷いを取り除いて私を元気づけてくれました。

今回の留学でまず私を感じたことは、自国の文化、制度などを理解することの重要性和積極的に話さなければコミュニケーションは出来ない、ということです。ホストマザーに日本のことを説明する際に、私は日本に住んでいるのに日本文化について満足に説明できない部分が多く不甲斐ない気持ちになることがしばしばありました。これは海外ではとても恥ずかしいことなのではと思います。このことは専攻別授業の時に日本の医療の現状をもっとよく理解しておけば、オーストラリアのものと比較した時により深く学べることが出来た、と感じたこととも繋がっています。今後作業療法士という仕事を指す上でも自分の守備範囲内のことはよく調べよく理解し、多くの人と積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。

今回のプログラムは学習の面と観光の面が両方とも程よく充実しており、私は非常に満足しています。この機会に得た経験が無駄にせず、これからの学習や生活に役立てていこうと思います。

最後に、今回の留学で大変お世話になったゴウ先生、柳沢先生、相良先生、準備に携わって下さった先生方、カーティン工科大学の Dallas 先生、Edith 先生、Linda 先生、この留学に関わって下さった全ての方々へ感謝の意を述べたいと思います。貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



理学療法学科の運動療法実習／治療室

#### 4) Curtin工科大学短期留学プログラムに参加して

##### 看護学専攻 3年 木村 智美

私が今回このプログラムに参加した最大の理由は、ただ淡々と過ぎていく大学生活の中で、自分に何かしらの課題を与えてもっと大きな視野を身につけたいと思ったこと、英語や海外の文化に興味があり、それを自ら感じ学びたいと思ったことが挙げられる。

私にとって今回が初めての海外、ホームステイであったので行く前は楽しさよりも緊張・不安の方が遙かに上回っていたと思う。10時間のフライトというのも初めてのことで、飛行機に乗ることによってその緊張感はさらに大きくなっていった。実際にオーストラリアで生活することによって、文化や景色の違いを感じることができ、週末観光では地球の広さというものを実感できた。私の目には何もかもが新鮮で、学校帰りに寄るスーパーなどでも、日本との違いを発見するたびに驚いていたことを思い出す。また、今回オーストラリアで誕生日を迎えることができ、友達・ホストファミリーのみんなに祝ってもらえたことは一生の思い出にもなると思う。

プログラムを通じて、共通語としての英語の重要性を肌で感じる事が出来た。ホームステイ先には他国からの留学生がいたこともあり、英語がいろいろな人を結ぶということを実感できた。日本語では思っていることや質問も簡単に相手に伝えることが出来るが、英語を使う環境下ではなかなか上手く自分の意思を伝えることができず、もどかしい思いをしたこともしばしばあった。英語が上手く話せないことによって、不安になったり日本に戻りたいと思ったこともあった。英語の重要性は中学時代から学習していることから、わかっていたつもりではあったが、今回その真の重要性を知ることができたと思う。

プログラムの細かい部分を見ていくと、本当に貴重で尚かつ楽しい経験がたくさん出来たと思う。特に3週目の施設見学では、日本との内装や在り方の違いを実際に見ることが出来、とても貴重な経験になった。その中でも私が一番感心し心に残っているのは Princess Margaret Hospital である。子ども病院であるこの病院は子どもに医療現場でのトラウマを残さないという考えの基に造られていたが、その施設は私の想像を遙かに超えていた。プレイルームはまるで遊園地のような造りであり、そこで遊んでいる子ども達の表情はとても優しいものであった。さらに一般病棟でも壁にはかわいい絵が描いてあったり、カラフルな色使いで病院＝怖い、暗いというイメージは連想できないような造りだった。ま

た、そこで働く道化師 Dr.(Clown Doctor)の子どもを楽しませる技術にもとても興味が沸いた。日本ではまだ、子ども病院に行っただけでないので比較することは出来ないが、今後実習で訪れる時にぜひ見たい・比べたいポイントを見つけることが出来た。

その他にも様々な施設を見学させて頂いたが、やはりオーストラリアは理学療法士の重要性がとても高く評価されていると思った。開業権があることも重要性を表している一つだと思うが、Curtin 大学でも、学習するためのとても良い環境が出来ていると感じた。日本に比べて、理学療法士の地位が高いのではないかと感じた。チーム医療の考え方が浸透し始めている日本において、他職種について学ぶことは重要なことである。日本との理学療法士の在り方の違いはどの様なものか、もっと勉強したくなった。

さらに海外では保健師のような健康教育を専門とする職種の資格はあまり見られないということを知り、とても驚いた。日本では当たり前のように保健師が至る所に存在し、私も何の疑問も持たずして保健師の資格を得ようとしていたところであった。今回そのような話を聞くことが出来て、「保健師とは何なのであろう。どうして日本だけそのような職種が独立したのか。」という疑問が浮かんだ。後期から地域看護の実習に出るが、もう一度保健師の専門性・重要性について学習し、その必要性を実習の中で実際に感じ、学ぶべきであると思った。

このように今回このプログラムに参加したことにより、文化にせよ医療にせよもっと日本の独自性を考え、学ぶべきだと実感した。もっと日本の文化や医療について英語で伝えられることが出来たら、さらに充実したコミュニケーションを取ることができたであろう。また、やはり英語の重要性を、身を以て感じたことにより、もっと英語を学びたいと思った。今回のプログラムは私に様々な刺激を与え、視野を広げてくれた。しかし、具体的に留学したことによって、何をj得ることができたかはまだはっきりとしない。だが、専門科目への興味と意欲がより高まったことは自覚している。このことから今後の実習や学習に対し、積極的に学んでいき、よりよい医療者となるのがこの留学の成果と言えると思う。



## 5) プログラムを通して得たもの

### 看護学専攻 3年 荘司 美紀

私がこのプログラムに参加しようとした動機は、ただ単に海外へ行きたいという理由だった。しかし、このプログラムは私に沢山のことを教えてくれた。

初めのうちは、初めての海外で英語も得意ではなかった私にとって、日本語の通じないホストファミリーとの生活が正直、辛かった。ネイティブな英語は早いし、聞き取りにくくほとんど何を言われているのかわからなかった。しかし、ホストファミリーはとても親切だったので、共に生活していく中で、徐々に何を言っているのかわかるようになっていった。日本にいた時の私は、英語なんて日本で過ごすにはあまり必要ないし、海外でもジェスチャーでなんとかかなと思っていましたが、ホームステイをしてみて私の考えを変えることができた。実際、身振り手振りで単語を繋げばなんとかなる場合もあったけれど、言いたいことが伝えられないことも多かった。その度に、自分をもっと英語ができれば楽しく会話ができたのに…と歯がゆい気持ちでいっぱいだった。英語は私の視野を広げてくれる必要なものだと感じる事ができた。

また、今回日本を出たことで、様々なことを知り、自分を見直すことができた。

まず、文化、習慣の違いだ。オーストラリアの人達は日本人よりも積極的に発言などをする。講義などでもそうだが、受動的ではなく能動的な授業で、基本的に言いたいことは言わなければ伝わらない。その一方で日本では言わなくても相手が察してくれたり、気遣う習慣があったりどちらかというと消極的である。それはどちらが良いではなく、双方とも大切なことだと思った。今回の生活の中でも色々してもらうのが悪いと思って言いたいことが言えなかったり、授業であまり発言できなかったが、異文化に触れることで自分を知り、変える良いきっかけとなった。

また、講義・病院見学を通して、オーストラリアの医療について知ることができた。Princess Margaret Hospitalでは小児のプレイルームのすごさには驚かされた。まるでゲームセンターのような造りで患児もお見舞いに来た人も楽しめるようになっていたり、患児に笑いや楽しみを通して安心感を与える Clown Doctor という専門職がいたりと楽しく治療が行えるように工夫がされていた。また、Regents Garden Nursing Homeでもシアターやマッサージルーム、レストランがあり設備が充実していて、部屋の造りも利用者一人一人に玄関のようなものがある、家にいるような雰囲気になっていたり、利

用者の子供や孫の面会を促すためにPCを置いていたり利用者も少しでも過ごしやすくなるような工夫がされていた。他にも何件か見学に行ったが、どこも設備が充実していること、そして日本と同じように患者を一番に考えて工夫、ケアが行われていることを知った。また、患者だけでなくそこで働く人にも配慮がされていて、移乗時に腰を痛めないよう移乗用の機械があったり、イベントを行ったりすることで楽しみながら働けるような工夫をしていることを知った。今回の病院見学で多少の相違点はあったが、患者を一番に考えてケアがされているという基本的なところは日本と変わらないことを知った。お互いの良い点を取り入れて、より良いケアが行われるようになると良いと思った。

最後に、オーストラリアの広大な土地に広がる素晴らしい景色は圧巻だった。海や空、星…全てが日本と違うように見えた。特にロットネスト島とピナクルズは最高だった。青い海に囲まれたロットネスト島には人工的に作られたものがあまりなく自然がいっぱいでその中でサイクリングはかなり気持ちが良かった。また、自然の中で創り出された木の化石、ピナクルズは一言では言い表せないものがあった。日本にいたら味わえなかった感動を沢山味わうことができた。

今回のプログラムで私はここに書き表しきれない程多くのものを見て、聞いて、感じる事ができた。日本にいたら知ることができなかった日本の良さも知ることができたし、自分を見直す良いきっかけとなった。また、様々な人と出会い共に貴重な時間を過ごせたことは私の一生の宝物になると思う。今回、見て、聞いて、感じたものを忘れずに今後の生活に生かしていきたいと思う。



ウオンバットとワイルドパークのお兄さんとスリーショット、日本にも来たことがあるそうです



ホイストという移譲用の器具，腰を痛めないように，人の力ではもちあげないようにしています



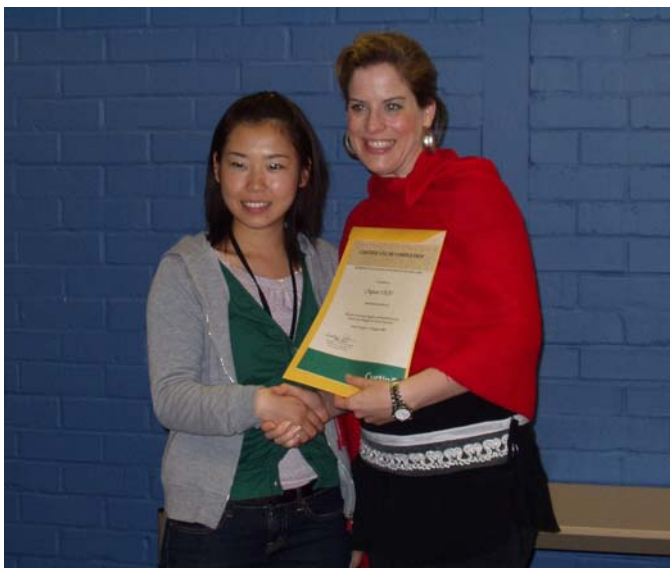
キングスパークからシティを望む



スワンリバーのワインテイスティング  
どれがおいしいかな？



修了証書



修了式で





(Caversham Wildlife Parkにて)

### 【編集後記】

カーティン工科大学プログラムも本年で7回目を迎え、長年このプログラムに携わってきた先生方のおかげでプロトコールも完成の域に達しているようにお見かけしました。今後ともこのプロトコールをよく理解する先生方の随行が継続の必須条件だと強く思います。学生は言語および文化の違いに戸惑う場面もありましたが、カルチャーショックという薬味がこのプログラムの重要な要素でしょうから、ねらいどおりだったと思います。それよりも、オーストラリアの家庭や生身の人間と接することによって得られた財産のほうがはるかに大きいのではないのでしょうか。私自身はロットネスト島を学生とサイクリングしたこと、愛くるしいクオッカ、長時間のピナクルス・バスツアーへの随行など、大変でもあり、楽しくもありというところです。

ただ、参加人員の減少は心配ごとの一つです。この問題は一石二鳥では解決できないかもしれませんが、今年躊躇した学生さんが来年参加してくれることを願うばかりです。また、経費削減のためのあらゆる努力が必要であることもいうまでもありません。最後に本プログラムを支えて下さった教職員の方々、同窓会の皆様に感謝します。

(文責, 相良)

.....  
「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学術交流協定に  
基づく平成 19 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2007 年 11 月 30 日

発行責任者:市川元基

編集 :平成 19 年度夏期留学・単位取得プログラム担当チーム

発行 :信州大学医学部保健学科

.....